浄国寺通信

第十二号
平成25年6月23日
発行
熊本市北区高平
2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山義紹

浄国寺 施餓鬼法要（檀信徒盆供養）開催案内

浄国寺夏季施餓鬼法要

日時　平成二十五年七月三日（水）
午前十一時より

浄国寺檀信徒お盆先祖供養

法話　大分県中津市　崇禅寺住職
甲斐　之彦　老師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい。

今年の梅雨は、梅雨入り宣言は早かったのですが、その後は空梅雨で、農作物への影響も心配されています。二年前から本堂の屋根の工事を進め、ようやく雨漏り等の心配はしなくて済むようになりました。今年も毎年恒例の、お盆の先祖供養を、右記の日程で厳修致します。当山では、原則として、初盆のお宅に限り、自宅へ伺うか　又は、お寺にお詣りに来て頂きますが、お盆中に全ての檀家の各家を一軒一軒回るということは、行わないようにしています。

十数年前に私が大病を患い、先代も高齢になり外回りに支障を来すようになった事情等が重なった為、こういう形に変えざるを得なくなりました。本来は年に一度くらいは檀家の方の自宅に伺うべき所ですが、近年急激に檀信徒の数が増え、又併設の幼稚園の仕事も重なり、個別に回るのは初盆を迎えられたお宅だけに限らせて頂くようにしました。この点を何卒、ご理解賜りますようにお願い申し上げます。

お施餓鬼とは

毎年お送りする寺報も兼ねた案内の中で、施餓鬼の法要の意味は、詳細に書いておりますし、昨年も書きましたが、再度簡単に記します。「誰も供養してくれる人のない御霊（＝餓鬼）に供養（施し）する事で、その功徳を廻らしもって、自分の先祖の供養を行う」これがお施餓鬼法要の簡単な説明です。この点は、ご理解下さい。

お盆にご先祖を思う

初盆で、伺った所では、話をさせて戴いていますが、施餓鬼とお盆では、由来の経典が違います。又、日本でのお盆の習俗と由来になっている「仏説盂蘭盆経」との間にも大きな隔たりがあります。習慣としてのお盆のしきたりは、日本の古くからの伝統的な考え方と日本人が農耕民族であった事と密接に関係があるようです。「お盆」という言葉は　お茶を運ぶ「お盆」とは全く関係なく「ウランバーナー」（意味は『逆さづりの苦しみ』）という古代インド語の音訳である「盂蘭盆」という単語から来ています。その経典では、お釈迦様の弟子で神通第一とされた目蓮尊者が神通力を使って敬愛した亡き母の姿を見たところ、母親は『ウランバーナー』の苦しみを受けていた。師匠であるお釈迦様は「母親は、我が子を溺愛するあまり、他者への慈悲と感謝の心を軽んじた為、そのことで苦しみを受けている。万物万人への感謝の心を持って供養をしなさい」と諭され、目蓮尊者は、それを実行したところ、母親は苦しみから解放されたとされています。今、私たちがここに生きていて、存在して呼吸をしているのは、単なる偶然ではなく、自分の意志とは離れた所の様々な因（原因）と縁（次の原因や条件）の果（結果）としてこの一瞬があるのです。特にご先祖様がいて、親が存在して、沢山の必然があっ

て、今年もお盆を迎える事ができているという事実を、もう一度考えてみましょう。そして、そのことに感謝をして、**今を大切に生きる事**こそが、お盆の先祖供養の大切さだという事を思い出して下さい。

今のこの世の中、生きていくこと自体苦しく辛いと感じているのは誰しも同じだと思います。更に言えば、自分の意志でこの世に生まれ、自分の希望でこの自分の身体や立場を選んで生きている人は居ないはずです。でも、私達は今こうやって沢山の因と縁を貰ってその結果（果）として今ここにいるのです。その因と縁の中でも親そして先祖の存在と、その努力と希望の結果としての自分が生きているのです。毎日、眼の前の問題と対決して生きているのが日常ですが、お盆の先祖供養の時ぐらい、今生きていること、それを作ってくれた先祖や親へ「ありがとう」と一言つぶやいて、自分の足許（日常）を再度見直してみませんか？

東北大震災によって、日本人は、自然の脅威を再認識させられました。徒にモノや金を追い続けるような右肩上がりの社会は、続くものではない事も学びました。しかし、今のアベノミクスの勢いの為か、逆行しているように見えることが出てきました。我々は、様々な縁によって生かされていることは忘れないようにしたいものです。

晋山式（しんざんしき）を挙行します

私は先代住職の存命中、浄国寺の住職の任命を受け、法的には浄国寺代表役員としてお寺を守っております。（平成十年七月二十五日　曹洞宗貫首　總持寺　板橋興宗猊下　現御誕生寺住職より任命）。しかしながら、お寺は住職の持ち物ではなく、住職は管理者です。本来は檀家、原語は古代インド語のダーナ＝外護者、施設を維持する為に施しをする人（旦那という言葉の由来でもあります）の方がいて、その力で、お寺は成り立っています。そして、住職はお寺の維持管理と布教の為に要請を受けて着任するのが本来の在り方です。そして、住職として適任であるかどうかを檀家の皆様に披露するのが晋山式になります。私としては先代住職である師匠（父親）の存命中に挙行したいと思っていましたが、幼稚園の仕事等に追われ、今になってしまいました。晋山式は特別な修行期間という意味もありますので、併せて若い修行僧の法戦式も行うのが原則になっています。今回は岩戸の霊巌洞の雲巌寺のお弟子さんの馬場俊英氏が一緒に務めてくれることのなりました。

これまでに床の張り替えを始め少しづつ伽藍の改修は行ってきましたが、式を行うにあたり、若干の工事が必要になりましたので、現在すすめております。七月の施餓鬼の法要の時は、ある程度見て戴けるようになると思います。本堂の内陣の整備と柱蒔きや横幕等の布関係の取り替えが中心になります。又、インドから中国に禅を伝えられた菩提達磨大和尚（ダルマ様）と、道元禅師が中国から日本に禅を伝える為に帰ってこられた時に、それを守られたとされる仏様　招宝七郎大権修理菩薩を本尊であるお釈迦様の脇にお祀りする場所を作っています。その為本尊様の横の壁に一部穴を開け、園の敷地に出っ張るような形になります。

正面の改修工事

曹洞宗では、最初に出家する時に行う「得度式」。修行者の長老として問答を行う「法戦式」そして、今回挙行する「晋山式」。この三つの式を経て、やっと一人の住職として認めて貰えるようになります・

私も五十代半ばを過ぎました。これが最後の大仕事になるのかなと思っています。

大権修理菩薩

菩提達磨大和尚

特別寄進について

通常、晋山式を行う時には、大幅な伽藍の修復を行います。又、沢山の僧侶に儀式の執行を御願いせねばなりません。その為、檀家総代の方が、割り振り一口いくらと言う形での寄付を御願いすることが多いのが通常です。当山では、日頃より手を入れておりますので、今回は予定していませんが、前述のような工事は行います。私自身、幸い幼稚園長で生活していますので、お寺に喜捨されたものは、お寺に使うようにしています。しかし、お寺は檀信徒皆様の大切な場所です。ご協力戴ければ幸いです。

定例木曜坐禅会

毎週木曜日　午後八時より

当山本堂にて

一炷（ちゅう）（約四十分）坐禅をして、道元禅師の著述に関する話（約二十分）今は「普勧坐禅儀」会費・会則一切なし、初めての方はご連絡下さい